■　第４回　新潟市スポーツ施設の未来構想会議

～「スポーツ×拠点性の向上」に向けて～

日時：令和５年 12 月１日（金）９時 40 分～

会場：市役所本庁舎６階　市議会第５委員会室

（橋本スポーツ振興課長補佐）

これより第４回新潟市スポーツ施設の未来構想会議を開始いたします。

西原会長から進行をお願いいたします。

（西原会長）

議事の（１）「第３回会議のふりかえり」について、事務局よろしくお願いいたします。

（寺尾スポーツ振興課長）

「第３回会議のふりかえり」について、ご説明をさせていただきます。資料１「第３回会議での主な意見」をご覧ください。第３回会議では、この会議で想定するエリア、白山公園から鳥屋野潟南部までにおけるこれからのスポーツ施設の姿についてご議論いただきました。その結果、「３つのエリア活用パターン」がよろしいという意見になりました。白山エリアは、スポーツによるまちづくり・スポーツによる地域活性化を図る場として球技専用スタジアムを。

鳥屋野潟エリアはスポーツの活性化・余暇の充実を図る場として、北部エリアに市陸上競技場の代替としてトレーニング特化施設、南部エリアでは白山エリアの球技専用スタジアムがＪ１サッカーアルビレックス新潟の本拠地となるという想定によってビッグスワンでラグビーの試合や陸上の国際大会などを今以上に開催できるだろうということです。さらにアリーナを新設するならば、コンサートなど複合的な使用を想定にというものでございました。また、防災拠点としても鳥屋野潟南部は最適だというご意見を頂いております。

なお、北部と南部は一体的に施設を集約するエリアととらえて考えたらどうかというご意見を頂いております。

ご確認いただいたこととして、20 年後の姿を見て議論を進めること。その他ご意見として、スポーツをキーワードに新潟市のまちづくり、地域活性化をどう進めていくのかという観点が大事だということになりました。

もう一点、全国のスポーツ施設の成功事例や交通インフラの課題などを深掘りできないかというご意見を頂きました。そこで、大野委員、坂上委員、山口委員をお招きし、当市の幹部職員向けにスタジアム・アリーナを核としたまちづくりセミナーを開催いたしました。そ

の中で、建設や運営の手法など、先進的な取組みを行っている事例をご紹介することができましたので、本日の議事の中でお三方から所感などをお話しいただきたいと考えております。

最後になりますが、鳥屋野運動公園野球場については、本日、ご議論をお願いしたいとしておりましたので、議事の（２）でお願いいたします。

（西原会長）

ありがとうございました。第３回会議のふりかえりということで、何かご質問、ご意見ありましたらお願いいたします。よろしいですか。

それでは、（２）「同類施設について」ということで、議事を進めていきたいと思います。先ほど、課長から説明がありましたように、鳥屋野運動公園野球場についてですが、事務局から説明をお願いしたいと思います。

（寺尾スポーツ振興課長）

資料２「鳥屋野運動公園野球場の建替えにかかる検討資料」、資料３「鳥屋野運動公園の現況写真」をご覧ください。この会議では、本市の拠点性の向上に寄与するといった視点でスポーツ施設を見ていただいております。会議で想定するエリアには、すでに拠点化、活性化に寄与し、広域集客施設であるＨＡＲＤ ＯＦＦ ＥＣＯスタジアム新潟とその同類として鳥屋野運動公園野球場がございます。鳥屋野運動公園野球の対応ですが、地震に対して倒壊または崩壊する危険性が高いのですが、新潟市財産活用推進計画の施設再編案の中では、存続といった方針となっていることから、この会議では建て替えを前提とさせていただいております。

現球場の現状や課題についてです。資料２の右側、鳥屋野運動公園野球場の現状・課題をご覧ください。

①駐車場不足による利用者からの不満が多い。但し、現在地で駐車場を拡大するには、新たに用地取得、もしくは運動公園他施設の廃止や移転が必要となります。

②大会時には渋滞を引き起こし、周辺住民のご迷惑となっていると。ＥＣＯスタジアムは、すでに稼働率が高く、オイシックス新潟アルビレックスのＮＰＢファームリーグ参戦により、建替後の新球場は今以上に中小規模の大会を受け入れる役割を果たすと予想されます。現在地でこれ以上、近隣住民の方にご迷惑を及ぼさないためには、アクセス面など、利便性の向上や渋滞対策が必要と考えております。

③市内で硬式野球の公式戦が開催できる球場であると。鳥屋野野球場以外に硬式野球の公式戦ができるのは西区にありますみどりと森の運動公園の野球場と西蒲区の城山運動公園の野球場のみです。軟式野球を含め、これまでの大会誘致における本市の優位性は、球場数と立地によるものが大きく、中央区で交通の便がよいところにあるということが望ましいと考

えております。

④３塁側スタンド後方からボールが飛び出し、駐車車両や隣接商業施設に被害を及ぼすことがあるということです。

資料３の現況写真をご覧いただいて分かるとおり、現在地では打球が飛び出しても大丈夫なように緩衝地帯を設けることが難しく、スタンドを高くするなどの対策が必要となります。

⑤ナイターがないと。東区と中央区のナイター設備付野球場は、狭あいで打球が飛び出すといったような問題を抱えております。新球場がナイターを備え、利用を移すことで問題が大きく改善します。但し、現在地でナイター設備にかかる用地を確保するには駐車場を減らす、あるいは運動公園他施設の廃止や移転をしなければなりませんが、駐車場を減らすということについては、①で申し上げました駐車場不足に矛盾するということになります。

議事の（１）にありましたとおり、「３つのエリアの活用パターン」では、鳥屋野野球場は現在地から押し出される形で南部のほうに移転するというような形に見えますが、これまでどこの位置がいいのかですとか、規模といったものの議論はございませんでした。

ただいまご説明いたしました現状や課題を踏まえ、改めて建て替えるならば、現在地なのか、それとも第３回会議にありましたとおり鳥屋野潟南部なのかをメリット・デメリットや、ＥＣＯスタジアムとの関係性などを交えてご議論をお願いしたいと思っております。

（西原会長）

本日の議論の中で一番大事なところかと思いますけれども、今ほど、ご説明いただきましたように、鳥屋野野球場を建て替えるとすれば、現在の北部なのか、あるいは鳥屋野潟南部ということになるかと思います。今、寺尾課長がおっしゃいましたように、これまで球技専用スタジアムとか、トレーニング特化施設、アリーナについての言及はあったのですけれども、野球場については具体的なアイデアというものは出ていなかったと思っております。

一方で、第１回の会議のときに、山口委員から、やはり新潟が野球の全国大会に選んでもらえるということが大事ですし、試合ができる球場は多くあるということは利点であるというご発言を頂きました。広いエリアを見て議論していかないといけないというようなご発言あったと思っております。

建替後の新球場については、鳥屋野潟南部ということになると、大会誘致、ＥＣＯスタがあって、どういう役割ということもあると思うのですけれども、その辺り、山口委員からご発言がありましたら、よろしくお願いいたします。

（山口委員）

野球場は、西原委員長のほうからお話しありましたとおり、一つあればいいというものではなく、全国的な大会を行う場合に、ある程度、短期間に行われるケースが多いのですが、

例えば一昨年８月に小学生の全国大会高円宮杯の大会が行われましたけれども、それを従来、神宮で実施していたものを、新潟を選んでもらえたというのは、複数試合を並行して実施できる球場が非常に多かったということもあります。そういう部分もあり、きちんとした設備のある野球場がある程度、移動できる範囲にあるということは、非常に大きなというか、いわゆるプロ野球といったようなものではなくて、子どもたちとか、社会人であるとか、そういった大会を短期の中で、トーナメント戦などで開催する場合には有効なのかなといったような発言を以前させていただいたところです。新しい球場ということになると、大きなコストがかかってきますので、まずはどこにというよりは、その必要性といったようなところが大切かと思っております。

今、事務局から頂いたお話の中では、今、大きな話題として、アルビレックスＢＣがＮＰＢファームリーグに参戦するということで、恐らくここの試合も多くなってきますし、また注目も浴びてきますし、これが起爆剤となって、県外からの試合の誘致もいろいろと増えてくるのかなと思っています。いずれにしろ、需要があるのであれば、必要であろうといったようなところとなりますし、場所に関しては今、事務局のほうから鳥屋野潟南部というお話もあったところですけれども、そこの場所はどこが適切なのかというところ。今、示された現状と課題の中では、現在の鳥屋野潟北部の場所では、やはり少し難しいのかなということで、少し議論を深めていかなければならないと思ったところです。

以上ですが、よろしくお願いします。

（西原会長）

ありがとうございました。やはり山口委員のお話しですと、ＥＣＯスタともう一つ野球場があるということは非常にメリットがあるだろうということが伺えたと思います。一方で、鳥屋野運動公園が今、少し狭くなっていて、限界があるのだろうというように感じていますが、坂上委員、大野委員から何かご発言ありましたらお願いします。

（大野委員）

ですので、山口委員がおっしゃったように、要は施設そのもの自体の役割とか、定義とか、あとだれのものなのかという部分をしっかり踏まえたうえで、それに合った施設を考えていかなければいけないのかと。ＥＣＯスタとかりに新しいこの球場であれば、それぞれの役割とか、機能というものを明確にしたうえで考える必要があるのかと思っています。今、全国的にスタジアム・アリーナ改革ということで、経済産業省の資料を見ますと、スタジアムとアリーナの定義というのが、基本的には数千人から数万人の観客をいわゆる収容する集客施設というようなことと、スポーツを見ることを主な目的とした施設というような定義づけがされていて、地域住民がいわゆるスポーツをする施設とスタジアム・アリーナというのは、

別物ですよという考え方の中で今、進んでいます。なので新潟市の施設のあり方の場合も、いわゆる経済産業省がやっているアリーナ改革と同じように、集客だけですよということと、市民県民が使う施設は別物ですよというようなことではっきり分けて考えていく必要があるのか、それとも新潟独自で、我々今まで議論してきた中で、おいしいとこ取りをしながら、いわゆるスタジアム、大きなアリーナなのだけれども、野球場なのだけれども地域住民も、できる限り使えるようにしたほうがいいよねという意見もあったと思うのですけれども、それって実は、現実的には相反する部分も出てくる要素の部分もあるので、今、言ったようにＨＡＲＤ ＯＦＦ ＥＣＯスタの機能と、いわゆる新しくこれから建て替えるよという前提の野球場というのが、それぞれ先ほど言ったように、役割、定義、だれものなのか、どういう機能を果たすのかということをもう少し詰めたうえで進めていくことが大事なのかと思いました。

ですので、そうすると前から言っているように、ビッグスワンという、陸上でいえば、国際大会もできるスタジアム・アリーナ、競技場というような機能と、あとはただ、市民の高校生、大学生、一般の人が使う競技場の施設というのは、それぞれ役割は明確にして、分けてやっていくというようなことが大事になってくるので、これは前にも話をしたように、ヨーロッパでもスタジアムとパークの機能がかなりはっきりしていて、そこが地域活性につながっているので、この野球場のほうも、そんな大もとのところは、少し明確にしながら進めていく必要性があるのかなと思いましたので、よろしくお願いします。

（西原会長）

分かりました。ありがとうございます。そういう意味で、野球場というもののいわゆる役割ですよね。大きく分けるとスタジアムのような、非常に集客施設としての機能ということと、あとは地域住民に提供するようなものというものを、今までの前例だとあえて分けていたのですけれども、それを新潟ではあえて新しい方式として一体化するということもあるのではないかということですよね。それも非常におもしろいアイデアですよね。

（大野委員）

そうすると場所の問題とか、いわゆる規模の問題ということが逆に決まってきますので。

（西原会長）

そうですよね。先ほど、山口委員からも少しありましたが、ＮＰＢに新潟が参戦していくといったときに、そのあり方というもの、例えば、ＮＰＢだと１軍がいわゆるスタジアム型でやって、地域住民とは一線を画している形ですけれども、例えばファームという考え方であれば、地域住民と一体化したあり方というものもあると思うし、そういう面も含めながらスタジアムの役割を考えていかなければいけないということですよね。ありがとうございま

した。

坂上委員ありますか。

（坂上委員）

野球場ということで、今、お話があるのですけれども、やはりこういうイベントで使う先ほど言いましたように、全国大会で使うので数が多いほうがいいと。それは当たり前で、では造ったものが先ほどの議論を受け継ぐと、普段使いでどのくらい利用されるのだということで、やはりけっこうお金をかけて造るわけですから、イベントで使う部分としての新潟の魅力という部分と、普段、造ったものがどのくらい使われているのかと。草刈りばかりして普段は使わないなどということがないようなバランスみたいなものもいるのかと。お金がたくさんあれば、そういったものをたくさん造ってもいいと思うのですけれども、やはり造ったからにはどうやって使ってもらうかということにも頭を使わなければだめかなと思います。

例えば、野球に関して言えば、我々が小さいころはもう野球というと超メジャースポーツで、少年野球大会もありましたし、今でもあるのでしょうが、早起き野球もあるのですけれども、すごくできる野球場というのは、新潟市はたくさんあるのではないかと思うのです。そういった中で、役割というお話がありましたけれども、ＥＣＯスタに次ぐような規模のものをもう一つ造るということに関しては、最初に言った、普段どれだけ使っていくのかなというような視点がやはり欠かせないなとは思いました。

（西原会長）

ありがとうございます。今、いわゆる新しい新球場の規模とか、役割という話に少し触れていただきましたが、当然、ＥＣＯスタと同じものを造ってもあまり意味がないのだろうなという気はしますけれども。

（坂上委員）

そうですね。それはないですよね。

（西原会長）

その辺り、いわゆる規模感とか、あとは将来的な野球人口とか、いろいろなことも加味しながら考えていかなければいけないのだろうと思いますが、山口委員どうぞ。

（山口委員）

先ほど、言葉足らずだったところがあるなと思って、再度、発言させていただきます。

やはり現実的に言うと多額なコストがかかるものですから、新潟市ならではの必要性というものが大切なのかと思っております。規模といいますか、役割といいますか、集約しますと、他都市の例では、施設を整備する際に、いわゆるプロスポーツの拠点にするであるとか、スポーツ産業の育成を目指すとか、プロチームがあるのであれば本拠地としてのシンボルに

すると言っているところもありますし、また広く全国・国際大会の開催誘致を目指すというもの。ビッグスワンの陸上競技施設が最たるものかと思いますが、来年、日本陸上も決定しております。けれども、またそこまでの規格が要らないとしても学生、市民等がいわゆる公式レギュレーション・規格で競技を行えるといったことも大切かと思うのです。先ほど、事務局からありましたとおり、野球場はとてもたくさんあるように見えるのだけれども、硬式野球のできるところが少ないといったところも新潟市の課題なのかと思っております。

あとはスポーツだけに視点がいきますけれども、コンサートであるとか、見本市などができるような複合型ということもあります。そこはやはり稼働率であるとか、運営もしていかなければいけないですから、収益性というものも考えていかないといけないかと思います。

（西原会長）

ありがとうございました。まず、国際大会を誘致するようなレベルなのかということが一つ。一方で、プロ野球のある程度、メッカ的な機能というものもあると。そこと多分、国際大会というのはまた少し違うのかなという気もしますし、それから次に言うとレギュレーションですよね。硬式の野球ができるレギュレーションレベル、最低限のものを備えていくとか、いろいろなレベルがあると思いますが、ありがとうございます。

大野委員いかがですか。

（大野委員）

ですので、一番最初から言っているように、新潟の場合は、日本一の施設ではなくて、日本初のある意味、施設というような考え方が大事なのかなということと、あとは天候の問題というのは我々の力ではどうにもできないので、やはり雪が降って、なかなかそういう特色のある地域ですので、その辺も加味したうえで、さらにいいとこ取りだけ言っていますけれども、逆に当然、地域住民を含めての有効性も、経済性もそうですけれども、その辺を取り入れたものは外せないのかなと思っています。

（西原会長）

ありがとうございました。やはりどうしても、先ほど、収益という話もありましたけれども、興行としてやっていくということと、地域と密着してやっていくということは、多分、収益構造が違ってくると思うのですけれども、例えば、東京や大阪というところであれば、興行ということを中心にできるのかもしれないのですけれども、やはり新潟市というものを位置づけたときには、どういう方法がいいのかというところを考えないといけないでしょうね。いわゆるナンバーワンでなくてオンリーワンということが必要だということですね。ありがとうございます。

坂上委員いかがですか。先ほどお話し伺いましたが。

（坂上委員）

硬式野球に限っていけば少ないけれども、全体のインフラとして野球場はいくつあるのという形で、委員長も言われましたけれども、そのバランスというか、これから野球人口があって、要するに使われる施設でないとお金をかけても、私は無駄だと前から言っているように、いいものを作って、高くても使用頻度が高ければ、やはりインフラとしてもとが取れるだろうという考え方になった場合に、この野球場は、正直な話し、少しクエスチョンだなというのは本音なのです。スポーツも野球だけではなくて、インドアとか、ｅスポーツだとか、いろいろな形のスポーツが出てきている中で、野球連盟の方に失礼だけれども、やはり野球よりもそういったもののほうがオンリーワンは逆に作れるのではないかと。スケート場もできましたし、それからｅスポーツであれば大きな会場でやる施設を新潟に造っていくというようなものもオンリーワンであればあるかなと。

それからもう一つは、やはりぱっと見た場合に、新潟市でより必要なものは、インドアの施設ではないかなという意識があるので、先ほど来、申し上げているように、少し山口さんには申し訳ないのですけれども、ちょっとという、すみません。

（山口委員）

いや、インドアもいいですね。

（坂上委員）

ということを思っています。だから鳥屋野球場があって、ＥＣＯスタができたから、ＥＣＯスタにある程度、鳥屋野球場が今まで持っていた機能は動いたのではないかと。先ほど、少し気になる文書があって、資料２で、ＥＣＯスタはすでに稼働率が高いと書いてあるのだけれども、高いというのはどのくらい高いのかなということが。本当によその球場、県にある球場等を見て、稼働率が高いのだろうかと。もっと使えるのではないかなということを数字で表していただくと、全体としてのいわゆるＥＣＯスタジアムまでの規模は要らないけれども、もう少しコンパクトな球場がいるということの数字的な裏づけが分かっていいかと思うのですけれども。

（西原会長）

ありがとうございます。寺尾課長、何か裏づけの資料などありますか。

（寺尾スポーツ振興課長）

今、坂上委員から稼働率についてのご質問がありましたが、私ども、ＨＡＲＤ ＯＦＦ ＥＣＯスタジアムにお聞きしたところ、利用がある日ということで考えると、プロ野球、アルビレックスＢＣの試合等も行われていますが、そういったものですとか、いろいろな利用がある日で考えると、令和５年度については 90 パーセント稼働率は超えているというように

伺っております。

（坂上委員）

それは、野球だけではないですよね。

（寺尾スポーツ振興課長）

野球だけではないかもしれないのですが、ほぼ、あそこは野球場なので、野球が多いかなと思うところです。

（坂上委員）

分かりました。ありがとうございます。

（山口委員）

屋内練習場の稼働率が非常に高いと聞いていました。あそこは野球だけでなく様々な競技の練習に使われているとか。

（坂上委員）

それもカウントされているわけですよね。数字はそのようにしっかり見ないと、私、９割と聞いてすごいなと思ったのだけれども。

（寺尾スポーツ振興課長）

グラウンドの稼働率。

（坂上委員）

グラウンドだけで。

（山口委員）

そうなのですか。

（西原会長）

そうすると屋内含めるともっとあれですね。そういう意味では、屋内はほとんど冬、あそこを皆さん利用されているから。

（山口委員）

けっこう予約が難しいみたいですね、特に冬期は。

（大野委員）

ビッグスワンもそうですけれども、会議室もけっこう使われていますよね。

（坂上委員）

会議室はしょっちゅうですね。

（大野委員）

だからもともとずっと言っているように、単機能の施設から多機能の施設に、会議室一つ取ってもそうですけれども、やはりポイントになると思います。

（寺尾スポーツ振興課長）

利用日ということでいうと、やはりコンサートも確かにあったりですとか、そうするとコンサートの準備の日ですとか、それから野球はどうしても天候が悪いと試合ができないという事情がサッカーと違ってありますので、予備日でもけっこう押さえている部分がありますので、そういった意味では、なかなか取りづらいというところです。

（大野委員）

でも、危ないですよね。スポーツの施設でいうと利用日という定義が、土日祝日が利用日という考え方だと思うのです、大会が、イベントがあるという。そうすると月曜から金曜までの稼働はどうなのかという部分も出てくるので、よく施設関係の利用日に対して 90 パーセントだと今、話をしていますけれども、でもそれは多分、土日祝日に対してのパーセンテージなので、やはりこれから考えるのであれば、月から金のいわゆる稼働とか、集客というのは重要になりますよね。

（西原会長）

複合的にいろいろな活用の仕方というのが、山口委員からも提案ありましたけれども、やはり野球だけではないという考え方でやっていかないと、なかなか収益の面でもそうですよね。

（大野委員）

それはだからスポーツだけではないですね。民間のオフィス機能を持ったりとか、販売機能があったりとか、そういうものは、今後は外せないのではないかと思います。

（西原会長）

特にＮＰＢのファームが入ってきたときに、アミューズメント性みたいなものもある程度加味しながらやっていくということはすごく大事ですね。

今、ＥＣＯスタの話にちょっとあれしましたけれども、あとは坂上委員がおっしゃったように、将来的な野球人口とか、いわゆるスポーツのニーズというものを考えたときには、ある程度、柔軟に対応できるようなものですよね。そういうものは大事でしょうね。ありがとうございました。

では、（２）についてはいかがでしょうか。大体、意見はこんなところで集約できたかと思いますが。

私のほうで整理させていただきたいのですけれども、大体、今までの議論の中で、大野委員からもありましたが、やはりナンバーワンではなくて、オンリーワンということを考えたときには、南部にいわゆる野球場が二つあるという、その機能も少し変えていってやるということは大事なことではないかと。多分、ナンバーワンということになると、いろいろな今

の全国の先駆的な施設を見ると、どちらかというといわゆるスタジアムという大きなものと、そうではない地域の人たちが使うところということを分けて考えるということが多いと思うのですが、あえてそこの二つ機能を一緒にするということもオンリーワンとしてはすごくおもしろいのではないかという意見だったのかと思います。

それから、規模の問題ですけれども、先ほどから坂上委員もおっしゃっていましたが、やはり将来的なことを考えたときに、例えば、ＥＣＯスタみたいな同じものが二つあるわけではなくて、やはり機能をきちんと分けていくという、柔軟に、将来的に人口が仮に減ったときには、何か対応できるような、そういう規模というのは必要なのではないかというご意見を頂きました。

それから山口委員からは、いろいろなレベルがあるのだけれども、やはり硬式野球のレギュレーションというものを最低限、維持していかないといけないのではないかというような規模感とかというものも出てきたと思いますがいかがでしょうか。

（大野委員）

硬式野球の施設のレギュレーションでポイントになるのはどういったところなのですか。

（西原会長）

最低限、どのくらいあればいいかということですか。

（大野委員）

よく水泳でも何メートル以上なければいけないとか、いろいろレギュレーションがあるのですけれども、硬式野球をやる野球場のポイントは。

（西原会長）

ありますか。

（寺尾スポーツ振興課長）

特に何か硬式野球という競技でのレギュレーションというよりも、今、準用しているものについては、高校野球の高野連が示しているようなものなのですが、鳥屋野運動公園野球場については、一応、硬式野球の公式戦ができるということになっております。課題になっているのが、照明設備については、野球連盟といいますか、野球をされている方からはナイター設備が今の鳥屋野野球場にはないということで、なかなか夜の試合ができないということも一応、言われております。ナイター設備については、硬式野球ができる、できないという基準にはないのですけれども、一応、そういったことです。

（西原会長）

今のお話を聞くと、正確なものではないと思いますけれども、レギュレーションなどを見るとやはり、先ほどから出ている北部というのは限界がある。やはり大きさはある程度、維

持しないといけないし、先ほど、問題があったように、やはりホームランを打ったときには、球場外に出てしまって車を傷めてしまうとか、いろいろな制約があるのだろうなということはすごく分かります。

（大野委員）

なので逆にこの鳥屋野の野球場ということでフォーカスしたときに、耐震の問題というのはある意味、何とかしなければいけないし、残しておけないいわゆる問題と、あとは先ほど言った公式戦のスポーツのそれぞれの種目におけるレギュレーションというのはごちゃ混ぜには、多分できない話しなので、今、言ったように、この鳥屋野の野球場のほうは耐震の問題であれば、もうすでに建て替えなければ、これは絶対にマストの問題ということと、あとは今、言ったように、各スポーツ施設におけるレギュレーションというのは分けて考えていかないと、ごちゃ混ぜになってしまうといけないのかなと思いましたので。

（坂上委員）

場所の位置という形になると、現状の鳥屋野運動公園では、私は無理だなと思います。二つあって、一つは馬術とか、交通公園もあるのです。交通公園はけっこうにぎわっていて、一回、行ったのですけれども、２回行ったか。要するに駐車場が無理ですよねと。使う側の人からいくと、これがある程度、レベルの高い施設ができて、使いたいとしても、恐らく駐車場の問題が出ると。

もう一つ、この地図を見て分かりますけれども、照明をつけたら、回り住宅ですよね。必ず明るいとか、そういうことが出るから、やはりそういう意味では、ここは別な形でいかれて、球場そのものは鳥屋野潟の南というところに持っていくのがベターかなとは思います。

（西原会長）

ありがとうございます。そうですね、特に、照明は今、非常に夏の暑いときに、やはり高校生もそうなのですが、昼間、試合ができない状況がかなり続いていて、そうなると夜間ということも検討していかなければいけないということも言われていますけれども、そうなるとやはり照明ナイターは必須ですし、ここでは不可能だということですよね。

（大野委員）

野鳥の問題が出てきますからね、今度ね。

（西原会長）

逆にね。

（大野委員）

逆に、違う角度の物差しも出てくるので、その辺は情報をしっかり収集したうえでやらないと、こっちが立ったらこっちが立たずみたいな案件なので。

（西原会長）

ありがとうございます。

山口委員よろしいですか。

（山口委員）

私がレギュレーションの話をしてしまったのですけれども、いずれにしろ、必要かどうかの必要性のところだと思っていて、正直、私は野球に関してはあまり詳しくないので、別途また野球関係者の方からの意見もヒアリングする必要があるのかなと思っています。それがベースにならないと、ここの会議の中でも憶測の話に尾ひれがついてしまうみたいな気がしております。ただ、私が野球の連盟とこれまで接触した中で、確かに野球人口というと新潟の早起き野球は日本一だと。1,000 チームを超えていたといった時期もあったかと思いますけれども、スポーツの多様性ということも出てきて、チーム数も減りというところがある一方で、野球は本当にいろいろな方々がやられている。小学生とか、小学校に入る前からだったり、また軟式野球、硬式野球があり、中学生、高校。高校野球は最たるものかもしれないですけれども、その後、社会人があって、その上にいくと、けっこう高齢の還暦野球のチームの元気な人たちがいるのではないかということで、生涯スポーツの一つだと思っております。規模は議論すると、だんだん大規模になりがちかとは思いますけれども、ＥＣＯスタがあってメインだと考えるのであれば、ある程度、サブ的で必要・十分条件を満たせば、まあまあいいのかなみたいな落としどころもあるかと思いますし、すみません、少し野球関係者の方々の実際の意見もお聞きしないと、と思っております。

（西原会長）

分かりました。そうですね、野球関係者の方々のご意見も伺いながら、このことを詰めていくということはすごく大事だなと思います。今、山口委員がおっしゃったように、確かに野球人口とか、スポーツ全体の人口は減っているのですけれども、逆にそれを盛り上げていくという視点もすごく大事だし、特に野球というのは非常に教育的な意義とか、あるいは生涯スポーツとしての意義というものがすごくあるので、そういうものも考えていくと、単に人口が減っていくから、じゃあ縮小という、そういう考え方というのももちろん大事なのですけれども、それだけはないのだろうなと。やはり専門家の方々の意見も踏まえて検討していくことは大事だろうと思います。ありがとうございました。特に還暦野球、山口さんのところは多分あれですよね。相当、新潟に還暦野球が来るとお金を落としてくれるというね。

（大野委員）

シニア大会はどこも盛況です。

（西原会長）

そうですよね。ありがとうございました。

では、もちろん専門家の方々の意見を聞いたうえでということになりますが、この検討委員会の中では、一応、今、ご意見いただいた中では南部というのが方向性としては適切ではないかということ。それから、規模についてもＥＣＯスタのようなものを造るのではなく、やはり柔軟に変えられるものであるとか、ただしレギュレーションとしてはきちんとしたものを踏まえていくというようなところかと思いますが。では、これはあくまでも未来構想会議の中での意見ということでとらえていただければと思いますが、ありがとうございました。

それでは、（３）に進みたいと思います。「建設や運営手法について」ということになりますけれども、これについては特に資料はございません。先ほど、課長からもご説明がありましたけれども、スタジアム・アリーナを核としたまちづくりセミナーが開催されまして、大野委員、坂上委員、山口委員から出ていただきましたので、順にそのことについて、少しご意見、情報共有していきたいと思いますが、まずは大野委員からよろしいですか。

（大野委員）

今、国内というか、日本全体でスタジアム・アリーナ改革というようなことで、各地域でいろいろな取組みをされているのだなということをこの前、ちょうど研修会というか、セミナーのほうでふりかえりをしながら、ただやはりそれぞれの地域で核となって、この構想なり、実際の建設なり、資金調達なりやられている方というか、進めている方が、それぞれ民間のパターンもあれば、行政が主体のパターンもあれば、いろいろな地域に応じてやり方というのはあるのだなということを再認識したと同時に、新潟市で同じく構想だけではなくて、本当に実現するために進めていくエンジンとなるやり方、手法というのは、だれが、いつ、どこで本気になって考えていかなければいけないのかということは、実際今、行政が主体でやっていますけれども、どうお考えなのかということは、今一度、確認をする必要があるのかと思いました。

（西原会長）

ありがとうございます。これはどうでしょうか。民間主導で、あるいは行政主導でとか、あるいはある方を中心にみたいなところがよくありますけれども、新潟市のあり方として何が一番いいのかと言うところですよね。

（大野委員）

ですので、我々からすると、こうやって話をしていても、結局、問題はやはり具現化できるかどうかということが最終的に夢を語っていても、実際、そのまま進まなければ意味がないので、そこの核となるエンジンをどこに持ってくるのかということは、ここで結論づける必要はないと思うのですけれども、真剣に考えないといけないなと。たまたま石川などは、

北國銀行という民がいわゆる主力で旗振りして進めているという話もありましたし、行政主体のところもある意味、行政が国の予算も含めて、かなりスポーツの予算というよりも、災害からいろいろな切り口の中で行政が本気になって、国の予算取りをして、アリーナ、スタジアムの要するに半分以上を国のほうから何とか持ってきて立てたところもありますし、その辺、新潟が一番いい方向にある座組というのか、進め方というのは、何か今、あるのですか、どこか新潟市のほうでは。逆に言いづらいと思いますが。

（西原会長）

苦しいですよね。ありがとうございます。後ほど、交通インフラの話もありますし、やはりまちづくり全体ですよね。そういうものを意識しながら、スポーツ施設は、そういう意味では核になるので、そういう意味で全体を網羅しながらやっていかないといけないのだろうと思いますけれども。ありがとうございました。

では、坂上委員、何か所感がありましたら。

（坂上委員）

非常に勉強になった会だったなと思います。むしろ我々が、これは６月からでしたか、最初にキックオフミーティングのときに、こういうものをやっていただくと、方向性がばちっときまったのではないかと、もう少し早く聞ければよかったなと思うくらいのお話しでした。

私が感じたのは、今までの議論とも通じますけれども、やはり我々が今、検討している施設、それから先ほど出た野球場も含めてですけれども、人を集める施設を造るということは、今まではどちらかというと、地元の人のスポーツ施設を造るという意味合いが、けっこうウェイトを占めていたのかなと。でも、全国で今、81、新規ですとか、建て替えの計画があって、すごい数だなと思ったのですけれども、それらの大半は、地元の人が使うというよりかは、周りから、できれば日本中から、それは毎日ではないでしょうけれども、イベントごとに人を集める道具立てとして作るのだという意識が非常に強いと。したがって、一番高いのは 400 億円でしたか、少しうろ覚えですけれども、新潟市が年間 3,000 億しかないので、400 億のものを造るということはなかなか難しいと思いますが、そういう意味合いであると。

ということと、日本全国は 80 万人、毎年、福井県がなくなるとか、鳥取県がなくなるくらいの人口が減っている中では、やはり人をどれだけ呼ぶかという地域間競争がもう始まっていて、では新潟市に人を呼ぶためにいろいろ検討しているものなども、どうやって使えば人を呼べるのだろうと。先ほど、お話があった、人が来ればお金を落としていってくれるので、経済効果という面でも見れるということだと思うのです。

そういう面で、81 万というところは、私どもがこういうプロジェクトを立ち上げるかなり前から、やはりそういったものを意識して動いているのだなと。それを我々は追いかけて

いくので、であればそれなりの知恵を絞った施設でないと、ちょっと追いつかないし、先ほど来、出ているオンリーワンみたいな知恵を出して作っていく必要があるのかなと。

新潟市にしても、合併等とあって、私は、どちらかというと小さな施設、小規模の施設は、もうほぼ数的には足りているのだろうなと。見直しで少し減らすというようなお話しもあるし、方向性はそれで間違いないと。ただ、先ほど言った人を呼べるイベント、もしくは全国大会で呼べる仕組みというのはどうしてもいると。さらに新潟県は、県立体育館がないというようなことで、インドアスポーツでは全国的な大会を呼ぶのに競技団体は非常に苦労しているというような形だと思うのです。

もう一つの観点は、やはり大きな施設を造るとお金がかかってしまいますよねと。そうすると大野委員が指摘されたように、官だけでも、それから北國銀行は本当に頑張ったなと思いますけれども、民だけでもなかなか難しいと。そうすると官と民、できれば前から言っているように県、市一緒になるとお金も少し出てくるし、県と市が一緒になれば国からもお金を持ってこられる。やはり単独の財政ではどうしても小ぶりなものしか、妥協の結果としてできないだろうと思うから、その資金集め、それから民間を呼び込む、県にもかける、それから政令指定都市ですから国から直接お金を持ってくるような仕組みをもって造るなら、人を呼べる。今回、せっかくこういうプロジェクトをやるのであれば、造りたいなと思いました。

人流をかけるくらいの施設ができればいいのですけれども、そんな印象を講演を聞いて思いました。

（大野委員）

すみません、それでこの前、そのときに、長崎のスタジアムのシティプロジェクトが大体全部で 800 億で、広島が 200 億、規模が最も小さいのは今治のスタジアムが 40 億で、金沢のこの前できたのが 85 億くらいでしたか。でいくと、多分、新潟市のほうは調べて、もう分かると思うのですけれども、どんなものなのですか。それぞれの今、お金の話がちょうど出たので、それを共有しておかないと。

（坂上委員）

予算感。

（大野委員）

予算感が、新潟市の予算ということではなくて、今言ったように、多分、一番かけているのは長崎で 800 億くらいかなというのがあるのですけれども、それでいうと何かあるのですか。要するにあるというのは、新潟市というよりも、どこどこが。

（西原会長）

これは多分、難しいですよね。

（大野委員）

データが、逆に新潟市らしく示すということではなくて、今、言ったように、私の認識だと長崎が一番多くて 800 億で、多分、今治がミニマムで 40 億くらいでやっているのですけれども、大体、政令指定都市とか、同じ規模でいうと、お答えしてくれというよりも、もうすでにあるデータというのはないのですか。

（寺尾スポーツ振興課長）

それぞれの一覧でというのは持ち合わせていないのですけれども、それぞれの今、私どもが所感として持っている、例えば、先ほどの長崎については、ジャパネットたかたが中心になって 800 億というお話がありましたが、ホテルですとか、いろいろな民間施設も含めてそれだけを投資されるということもありますし、あとやはり民間企業と経済界がどれくらい投資をするかということによっても、予算額の規模が変わってきたりとか、それから今、愛知県で構想されているアリーナについても、かなりの金額が計上されたと思うのですが、そちらも民間企業が入って、かなり日本でも有数のアリーナを造られる構想とお聞きしていいますので、それぞれの規模とか、民間企業の投資額とか、それからほかの愛知県の新体育館整備は大体 400 億くらいとお聞きしていますけれども、それぞれの複合型なのかとか、いろいろな考え方によって、また少しばらばらになってくると思いますので。

（大野委員）

分かっていてお話ししているのですけれども、そうではなくて総額は当然今、だっと各参考というか、地域の部分でだっと出てきて、この前の話しだと、例えば、同じ 400 億でも、半分は国で、要は行政で、もしくは半分は民間でみたいな形で、資金調達の問題もそうなのですけれども、多分それはデータ化されているはずなので、それを逆にまとめておいてもらったほうが我々としてもいいのかなという話しなのです。だから総額自体、分かってくるのですけれども、一般の県民市民の人も、総額だけ聞いていても、その内訳が、ほぼ民でやっている地域もあれば、今、言ったように半分は行政で、半分は民でやっている地域もあれば、また国の予算が入ってやっているところもデータとしてあるので、そこをもしであれば整理をしておいてもらえると、新潟方式というか、新潟はどういう方向でやったらいいのかということが見えてくると思うので。

（坂上委員）

造る部分もありますけれども、実は造った以降のランニングコストをどうやって回収するかということが、よく行政は、我々のほうから造りっぱなしで箱もの行政だとしかられるわけで、使ったものはやはりいくら高くても前から言っているように、使われればもとは取れ

ると。民間の発想はそうなのです、どちらかというと。だから、ではランニングの費用をどうやって回収するかということも考えていかなければだめで、建物を造ったら、極論ですけれども、先ほども少しお話ししたのですけれども、新潟は銭湯が少なくなったら銭湯を入れて、お風呂も入れるようにするとか、図書館なり、市立美術館もそんなに大きくないから美術館も入れてしまうとか、極論すればスーパーを入れてしまうとか、いろいろな形にして、スペースを売って、そこで回収する。もちろんネーミングライツというものもありますけれども、あれではいくらもかからないので、要するに複合施設でそういったものが必要かなとは思います。

（西原会長）

ありがとうございます。建設も含めて運営手法ですよね。ＰＦＩとか、コンセッションとかいろいろありますけれども、そういう手法も含めですよね。きちんとやっていかないといけないということと、あとそれをやるにしても、やはり先導さんとか、どういう組織でやっていくかですね。民間もそうなると交えていかないといけないし。

（大野委員）

あと各地域によって、やり方がみんなばらばらなので、先ほど言ったように、新潟市らしいというか、新潟に適した、いわゆる資金調達もそうですけれども、やり方を考えないと、なかなか首都圏の大企業があるところでぼんとやる話しではないので、その辺を座組という表現を先ほどしたのですけれども、そこの部分の方向性とおっしゃるように先導がそれに目がけて、やはりどう動けるかということは、かなり重要だと思います。

（西原会長）

ありがとうございます。

そういう意味では、そのためのきちんとした基礎資料を作っていただいて、その中で適切に新潟はここだろうというものが出てくるといいと思います。ありがとうございました。

山口委員、いかがですか。

（山口委員）

10 月にさまざまな事例、「スタジアム・アリーナを核としたまちづくり」というテーマでしたけれども、大変勉強になりました。本当にびっくりしたのは、今、全国でスタジアム、野球場、アリーナ等の計画・整備が 80 か所以上で進んでいるというところでしたが、残念ながら新潟市だけではなく、新潟県そのものが空白地帯だったということが驚きでした。

背景には、国の経済産業省、スポーツ庁が「スポーツ未来開拓会議」というものを設置しまして、いわゆる地域活性化の一つとして、スポーツ産業を育成しつつ、人口減少であるとか、地域課題を解決しましょうというような目的で進めているとか。他都市の例を見ると、

長崎の例であるとか、広島の例であるとか、さまざまそれぞれなので、一概にどうこうということはないのですけれども、共通しているのは、まちづくりの一環であり、スポーツを起爆剤としての産業育成であったり、地域の活性化を図るためのインフラとしてだったかと思っています。ですので、ただ単にスポーツをしたい人が、スポーツができるというだけではなくて、もっと広い視野を持って議論していかなければいけないのかと思っています。

資金的な部分が出てきていますけれども、行政、国というような、まずは先入観が私もあったのですけれども、例えば企業であったり、銀行であったり、あとクラウドファンディングを募集したら、非常に多くの資金が集まったという事例も報告があるようです。銀行が主体になる事例は、恐らくここは坂上委員が一番詳しくらっしゃると思うのですけれども、銀行が、地域が活性化すれば、預金額も増えるみたいな、ちらっとそんなお話もあり、結局、地域の企業が元気になるとめぐりめぐって、みんながよくなっていくみたいなところがあるのかなというお話も頂いたところです。

資金調達、民間資金活用については、今、さまざまな事例がありますので、以後、検討していかなければいけない大事な部分なのかと思いますし、特に時間もかかるものだと思っております。

蛇足なところですけれども、先々週、金沢でスポーツ庁主催のスポーツ誘致等に関する勉強会みたいなものに参加しで、金沢の例をお聞きしてきました。金沢ですけれども、観光都市といったイメージが強いところですけれども、スポーツ振興にも多くの予算を配分しております。その中で、金沢が特徴的なのが、宿泊税があるといったところが強みであったかと思います。宿泊料金が２万未満だと 200 円、２万以上だと 500 円ということで、年間８億近くの税収があり、それをすべて観光、文化、スポーツに配分していくといったようなところ。

金沢のスタジアムが今、ちょうど完成して、年明けくらいで供用開始になるのだと思うのですけれども、Ｊリーグのツエーゲンの本拠地になるところですけれども、ここの資金についても、この宿泊税をスポーツ施設の再編のためということで、基金化して資金を投入したなどという一つの、新潟ができるかどうかということはわきに置いておきますけれども、一つの事例なのかなとそのような感想を得たところです。資金調達の部分については、行政だけでなくて、国の計画に乗りつつ、民間も巻き込みつつというのが、やはり必須なのかなと思っています。私の感想ですけれども以上です。

（西原会長）

ありがとうございました。

（坂上委員）

今の話にもあったのですけれども、やはりこのプロジェクトが終わった後に次のステップ

に移るとすれば、民間、それから市民、競技団体にも加わってもらって、先ほど来、お話にある人口減少する中では、一番いいのは定住人口を増やすことですけれども、そうでなくてもいわゆるスポーツとか、新潟は観光のインフラが少ないですけれども、人を呼び込むためのインフラとして、こういうものを造るのだよということを行政だけではなく、特に今ほど出ている民間企業ですとか、商工会議所。商工会議所新潟市は5,000人弱を5,000人にしようというように今、一生懸命やっていますけれども、そういったところにも、なぜこういう施設を造るかと。それは新潟に人を呼んで、新潟の魅力を高めて、新潟のまちが発展していくためにこういったものを行政がひとつリーダーとなって作っていくということをお話しして、そういった方たち、できれば市民の皆さんにもそういう意識を持って参加してもらうというような、ただ、ものを作るのではなくて、何のために作る。先ほど、いろいろなご意見が出ていますけれども、そういったことをしっかり市民なり、新潟の経済界の人に分かってもらって、協力を得て作る。そうすると使い方なりも変わってくるだろうし、もっと別なアイデアも出てくるのかと思います。そこまでいけば大正解ということになると思います。

（西原会長）

ありがとうございました。次のステップのご提言もありましたし、あと山口委員からもありましたが、かなりドイツの都市は、けっこうスポーツが、いわゆるハードだけではなくて、ソフトのいろいろな仕組みを作ることでかなり税収が増えている。税収が増えて、それもやはり子どもたちへの還元であるとか、スポーツの振興とかというものができているのです。それもかなり何百億というレベルでできたりしているところがあるので、そういうものも含め、新潟市全体が潤う。そのためにスポーツをある意味、手段化していくことで考えていくということは大事ですよね。

ありがとうございました。では、時間もかなりオーバーしていますので、次にいきたいと思いますが、続いて、今の話しにもかかわると思いますが、（４）「交通インフラについて」になります。それでは、事務局から説明をお願いいたします。

（高橋スポーツ振興課主査）

資料４「エリア別の交通課題について」をご覧ください。

この第４回会議に先立ちまして、市役所内の道路の計画や維持管理、都市政策関係課に対しまして、資料１にある三つのエリア活用パターンを踏まえました施設設置を前提に、交通の課題など意見照会したものの概要となっております。以下、資料に沿って説明させていただきます。

青字で囲ってある白山エリア（球技専用スタジアムの新設）の場合というところでございます。交通課題、交通インフラの視点では、マイカー利用による混雑が懸念されるが、公共

交通機関の利用促進により、十分な対策が可能。越後線の白山駅や市役所バスターミナルを利用して、大規模な旅客輸送を既存の公共交通機関で対応できる。鉄道、バス、シェアサイクルなど、公共交通機関が充実している場所である。公共交通の利用促進を進める交通施策とも一致しており、来場者が多い施設となれば、鉄道を中心とした集客が望ましい。バリアフリー化の整備も一定程度進んでおり、現在策定中の計画（移動等円滑化促進方針）にも促進地区として位置づける予定であると。ただ、一方で、周辺の渋滞対策ですとか、駐車場不足に対する検討は必ず必要になってくるというものでございました。

その他の意見といたしまして、マイカーを利用できない学生、高齢者なども施設を利用しやすいことに加え、既存の公共交通機関の利用者も増え、持続可能な公共交通の確保と維持につながる。一方で、新潟市の景観計画の特別区域や都市計画に定める風致地区に白山は当たります。屋外広告物条例に基づく規制もありますので、それには対応が必要になってくると。また、屋外広告物の制限は、いわゆる民間の資金でありますネーミングライツへの取組みとも関係が深いことから、対応をしっかりとしてほしいというものでございました。また、公共交通が充実しているエリアであるため、駐車場を整備される場合の容量については、よく検討してほしい。渋滞対策や滞在時間の増加などの観点から、まちなかでは特に公共交通利用を促進したいためというものでございました。

オレンジの字、鳥屋野潟南部エリア、こちらは想定でありました鳥屋野野球場の移転ですとか、アリーナの新設を前提とした場合にどうかというところでございます。同じく交通施策・交通インフラの視点では、イベント時の渋滞が課題となっている現状に加え、周辺の大型商業施設利用者等による慢性的な渋滞が発生しています。今後、大規模開発の計画もあり、交通処理の課題があると。想定される交通課題については、道路整備のみによる解消は難しく、市民病院の救急搬送や消防局の活動への影響も懸念される。施設整備によって、新たに見込まれる自動車交通や公共交通需要の影響などを検証し、エリアに関連する各管理者、運営者、交通事業者またイベントの主催者などと交通に関する協議・調整を行う必要があるものと考える。鳥屋野潟南部は、主な公共交通機関はバスとなる。また、バスによる市の基幹公共交通軸を位置づけている場所であると。ただ、場所的に一定の自家用車利用も想定する必要があるというところでございます。また、バス運転士の数は今後も減少していくことが見込まれており、公共交通による輸送力の確保は課題であると。

また、その他自由意見といたしまして、鳥屋野潟南部開発計画における土地利用のゾーニングのコンセプトを踏まえた検討をお願いしたいというところです。また、鳥屋野潟南部エリアを郊外と見たときに、そこに集約するだけでは、まちのにぎわいにはつながらない。こういった意見を頂きました。

以上、概要となりますが、上げられた課題については、今後、施設建設を議論する段階においては、改めて関係部署と協議が必要であると考えています。本日、鳥屋野潟南部は、施設の集約する場でありますとか、新野球場といったご意見も頂きましたが、今ほど申し上げた交通課題も踏まえまして、またご意見を頂ければと思っております。よろしくお願いいたします。

（西原会長）

ありがとうございました。時間がだいぶオーバーしているので、できれば簡潔にお願いしたいと思いますので、ぜひご意見をください。

今、白山エリア、鳥屋野潟南部エリアを中心に課題も挙げていただきましたが、最終的には先ほどから議論されているまちづくりですよね。ここにスポーツ施設があって、そして交通インフラというものが欠かせないものになってくると思いますので、ぜひご意見を頂きたいと思いますが、山口委員、まず何かありますか。お願いします。

（山口委員）

交通については、大事なところで、やはり他都市でも交通アクセスということがどこも課題になっていると聞いております。他都市では 20 分歩かせるだけで、そこはアクセスが悪いといった評価がある一方、鳥屋野潟南部、ビッグスワンまで 40 分、アルビの試合があるとみんな駅から歩いていますけれども、なぜ歩くのかというと、やはり渋滞が起こるからといったところと思います。

そういうところで立ち戻って申し訳ないのですけれども、野球場が南部というのもあるのですけれども、そこは交通アクセスの課題を何かしらクリアした上での南部なのかなと感じています。市の交通政策サイドに、この南部の交通の部分の話をしますと、ここにも書いてありますとおり、公共交通はバスですと。バスによる基幹交通軸を位置づけているといったような返事しか返ってこないというか、すみません、少し言いづらいのですけれども、とてもさびしいなというところで、もう少しいろいろ工夫する必要があるのかと思っています。

夢を語らせていただきますと、鳥屋野潟南部、北部も含めて、パーク型と考えるのであれば、一つのコンセプトが必要だと。鳥屋野潟というところであれば、ウォータフロントであるとか、潟であるとか、自然との共生もテーマになるのでは。今まで大野委員が鳥屋野潟に橋を架ける絵が今まであったよねというお話しがありましたけれども、自然環境などの課題もありますが、それも一つのアイデになってくるのかなと。せっかく水辺があるのだから、水上交通というものも一つのアイデアなのかなみたいな、そこは妄想を描きつつ、弁天線でバス、バスと言っているときっと堂々めぐりで答えは出ないのかなという思いはあります。現実的に考えれば、致し方ないところがあるかもしれないですけれども、やはりそこは議論

と検討を深化させていかなければと思っております。避けて通れない課題だと思っております。

（西原会長）

ありがとうございました。南部エリアを中心に。

（山口委員）

あわせてですけれども、金沢での事例ですが、金沢もスタジアムまでの渋滞が激しいとのことですが、現在、金沢駅からスタジアムまでシャトルバス片道 400 円で運行しているところを来年度からその料金を無料にするそうです。だからといって渋滞が解消するかどうかは、分かりませんけれども、そういう施策を取っているところもありますので、その効果なども来年度、調査してみてもいいのかと思います。

（西原会長）

ありがとうございました。

坂上委員いかがですか。

（坂上委員）

今、お話を聞いてなるほどと思いましたが、特に鳥屋野潟南部に関しては、今ある施設だけで、例えば、あそこに極論で、私は新潟モノレールが一番いいと思うのだけれども、雪に影響されないから、人を乗せていくと。今あるあれだけの組織では、人はきっと動かないと思うのです。そうすると南部に例えば、先ほど言った市立美術館、それからいろいろなインフラをあそこにそういう公共的なもの。市役所が動くのも一つの手だけれども、無理やりそのように使わせて、そういったものになれば、人は人流を変えるという。人流というのは、先ほどは全国的な人流の話しですけれども、今度は新潟市内の人の流れを変えるというような将来構想を思って、あそこに人を集めるような施設をどんどん作っていけば、例えば、新潟交通が主体であったとしても、今ではきっと採算が取れないから、それは無理ですねというようなお話になるし、橋も無理だろうし、ましてやモノレールなどとんでもないという話になるのですけれども、少し大きな夢を描けば、そういった形で持っていかないと少し難しいし、そういうことを考えかなければならないのだろうと思います。

ただ、現状を考えると、南部まで人を動かすのは、やはり新潟交通のバスは無料にすると。要するにただであれば車で行くよりいいよねと。どうせ車でも駐車場が 1,000 円かな。それといらいらするのであれば、バスで行こうと。ただだぜというのは、一つアイデアだなと思いました。まとまらない話しですけれども。

（西原会長）

ありがとうございました。でも、山口委員と一緒で南部エリアということを考えるのであ

れば、もっとそこを複合的な、いろいろ魅力的なまちにしていって、そこに人がたくさん来てくれると。そうすれば交通インフラもおのずと整備されてくると。

（坂上委員）

民間がやっても採算が取れると。

（西原会長）

大野委員いかがでしょうか。

（大野委員）

交通インフラについてということなので、細かい部分よりも、これが一番現実味があるのかなと思っています。ここはまさに我々民というよりは、行政のスタジアムうんぬんというのは抜きにしても、行政の主導の部分なので、これはもう一番言ったことが現実にできる部分なのかと思っていますし、先ほど言ったように風致地区とか、都市計画法とか、土地改良法とか、土地のいわゆる開発については、いろいろな法律やルールに則った中でやらなければいけないという縛りはあるものの、逆に行政だからこそ、そこは公園法も含めて調整ができるお立場ですので、どちらかというと風致地区だからとか、広告条例だからとかということがもしあるのであれば、ぜひ積極的に、そこの部分は我々というよりかは、行政が主導になってやってもらったほうがいいのかと思っています。スタジアム問題よりはインフラや土地の開発ということは、まさに行政にやってもらえるかどうかというところなので現実味あるなと思っています。

ただ、先ほど、話を聞いたように、スタジアム・アリーナの定義が今、国のほうはとにかく人を集客する施設なのだというような定義づけをしている中で交通インフラの話をすると、これもやはりだれのための交通インフラなのかということは、明確にしておいたほうがいいと思います。渋滞が起きることによって、地域住民の方が迷惑にならないようにというようなための交通インフラなのか、それともスタジアムやイベントなどを目がけて、今、言った県外から人がたくさん集まってきて、不便がないようにというようなインフラなのか、交通インフラの整備についても、多岐にわたってやらなければいけないことは分かるのですけれども、その辺、見え方を間違えるとむにゃむにゃな道路ができてしまったり、よく分からない交通網ができてしまったりするので、そこははっきり明確にしてやる必要があるのかなということ。

あとスタジアム・アリーナ改革の中で、いくつかメリットがある中の一つに、土地の価格が上がる。これは地域住民に一番還元できる目に見える部分なので、そういう意味では、都市開発もそうですけれども、地価が価値あるものになるような、それにつながるような交通インフラというのは、切っては離せないと思うので、その辺もスタジアム・アリーナができ

たら、またある意味、一定の効果として、その土地の価格が上がるということも、たくさんメリットがある中の一つですし、それが今、言ったように、地域住民にとって大きな目に見える価値になりますので、その辺は外さないようにしてもらえたらなと思いました。

（西原会長）

ありがとうございました。

時間もありますので、ご意見いただいたところを含め、交通インフラについては、もちろん交通インフラのいろいろな検討は市でされていますけれども、やはりスポーツ施設というのはすごく人が動くので、やはりそこを考えながら、ぜひやっていただきたいし、逆にプラスの方向でいろいろ考えられるのかなと思うので、お願いしたいと思います。

今、委員の皆さんからも、特に南部エリアということもありましたけれども、例えば、今日、一番最初、白山エリアで市陸の跡地に球技専用スタジアムというものが仮に想定されたら、そこにかなり人が来て、そこで当然、今日の話のようにお金を落としてくれるということがありますよね、古町中心に。そこの税収を今度、例えば、交通インフラ、南部の方にも回していくとか、そういう市全体でお金をどう回していくのか。その中で交通インフラを考えていくのかということはすごく大事なのではないかと思います。ありがとうございました。

あとこの委員会の中で、一応、スポーツ施設については10年から30年くらいのところを何となく描いていますけれども、交通インフラのどこを焦点にするのかということがあると思います。ありがとうございました。

では、用意した議事は以上になりますが、事務局のほうにお返ししたいと思います。よろしくお願いします。

（橋本スポーツ振興課長補佐）

西原会長、スムーズな進行、まことにありがとうございました。委員の皆様におかれましても、貴重なご意見を頂き感謝申し上げます。本日まで頂戴しましたご意見を踏まえて、これから提言書の作成に進んでまいりますので、引き続き、よろしくお願いいたします。

次第の３その他とありますが、事務局からは特にございません。委員の皆様からはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

次回、年明けの予定となっております。改めて日程調整のご連絡を差し上げますので、よろしくお願いいたします。

以上をもちまして、第４回新潟市スポーツ施設の未来構想会議を終了いたします。